

# Patent attorney

## 私の目指す弁理士像

• No. 94

会 員

菅 野 重 慶

私は、2004年の弁理士試験に合格し、その年の12月に弁理士登録をしました。従って、弁理士としては出発点に立ったばかりであり、未熟者であると言えるでしょう。また、2000年1月から現在の特許事務所に勤務していますが、その前は化学系企業で研究の仕事に携わっており、知財関係の仕事に専門にしていた訳ではありません。従って、弁理士としてのみならず、特許技術者としても勉強不足であると言えるでしょう。

しかし、弁理士として仕事をする以上、いつまでも「未熟者なので…」と言っている訳にもいきません。そこで今回の「私の目指す弁理士像」の原稿執筆を好機として、自分が今後どのような弁理士を目指すのか、そのような弁理士になるためには何をすべきか、初心に帰りつつ考えてみたいと思います。

### (1) 研究～知財間の橋渡し

前述の通り、特許事務所に勤務する前は化学系企業で研究員として勤務していましたので、その仕事の性質上、知的財産に関わる必要性が十分にありました。しかしながら、知識に乏しく、「仕事の成果をどの様にして権利化したら良いのか」等、分からないことばかりでした。また、仕事の内容について熱く語ることはできても、「発明」として仕事を捉えることができず、今にして思えばたくさんの回り道をしていたように思います。企業内で同様のジレンマを抱えおられる方々が多いのではないのでしょうか？そこで、発明の抽出から権利化までを元研究員の目線で発明を捉えつつ、どの様に権利化を図ることが可能なのか、クライアントにとっての最善策とは何なのか、的確にアドバイスできる弁理士を目指したいと思っています。また、気軽に頼って頂けるような存在にもなりたいですね。

大雑把で抽象的、かつ当たり前の目標ですが、私が弁理士を目指した理由の一つでもありますから、折に触れて思い出そうにしたいと思っています。

### (2) 国際派

海外にも目を向けた特許戦略を展開するクライアント

は、当然の如く増加しています。従って、語学力に長け、各国法制を理解する弁理士が以前にも増して重宝されるようになることについては、疑いの余地はないでしょう。しかし、これまで私は、「弁理士試験の勉強を優先するのだ」という建前の下、英語力の強化や各国法制についての勉強を後回しにしていました。

またしても当たり前の目標になりますが、近い将来「国際派」を名乗ることができるよう、英語力を強化し、各国法制の理解に努めたいと思います。

### (3) 人から学ぶ

ほんの数年間ではありますが、これまで特許事務所です仕事をしながら、事務所内外を問わずたくさんの方々とお会いする機会がありました。色々な方々とお会いすると、その方々が、自分にはない経験や知識等をお持ちであることに驚かされることもあります。私が弁理士を目指してからなるまでの期間は約5年ですが、弁理士として仕事をする期間はこれよりもずっと長いはずですが、この仕事を通じてお会いする人の数と、その人の経験等に驚かされる機会は、これから益々増加していくことでしょうか。こんな好機を逃す手はありません！人から学ぶ（良いところ取りとも言う？）ことによって、自分の幅を広げていきたいと思っています。

### (4) 結び

結論的には、「それじゃあ、あの弁理士に相談してみようか？」と言われるような、便利で頼れる「あの弁理士」になりたいと思っています。

私なりに考える弁理士像、そしてそのような弁理士になるために行うべきことについて、抽象的に述べてまいりました。「誰でも考えることだ」、或いは「普通のことだ」といったご指摘を頂戴しそうでもあります。しかし、誰でも考えそうな普通のことを実践することこそ、一番難しいことかも知れません。あくまで新米弁理士が掲げる目標ですので、何卒ご容赦下さい。